森林生態

森林生態と種多様性維持（講義）
樹木実習（現地）

日時：平成２４年９月８日（土）　１０：００～１５：００
講師：山本　進一（岡山大学　副学長）

概況

講師: 山本　進一

第1時限
○森林生態と種多様性維持
・草と木の違い
「木」では、肥大成長するためにリグニンで細胞を固める。これを木化という。「草」では、この木化がない。
では、竹はどうか。竹には維管束形成層がないため、木部はあるが二次肥大成長しない。木には維管束形成層があり、二次肥大成長する。
・分類と学名
植物には、名前がある。学名と日本の和名。学名は、「界、門、網、目、科、属、種」に分類されている。
・樹木（木本植物）の特性
樹液上昇のメカニズム・・・樹木は重力に逆らって水を上昇させるメカニズムを持っている。重力だけでなく、吸水抵抗や摩擦抵抗などがある。水を上昇させるのは大変な力が必要である。
樹木の生活史・生活環・・・芽生え→稚樹→成木→開花→結実→種子→芽生えという生活史・生活環がある。
・森林の定義
「森」は樹木の大集団で自然にできたもの。「林」は小集団で人工的なものと定義で

きる。世界の植生をみると水に恵まれた所に森林がある。気温により植生は分類されるが、まずは水がなければ樹木は育たない。

・東アジアの森林植生

　東アジアは北から南まで樹木帯で繋がっている。北から亜寒帯針葉樹林、冷温帯落葉広葉樹林、暖帯常緑広葉樹林、熱帯林となり、暖帯常緑広葉樹林へと繋がる。これは世界のグリーンベルトといえる。この中に日本が入る。

・日本の森林植生

　日本には、亜熱帯から亜寒帯までの森林がある。愛知では、年平均 1600 ミリの降水があり、落葉広葉樹林から常緑広葉樹林がみられる。代表的な落葉広葉樹はコナラ、アベマキ等である。また、代表的な常緑広葉樹はツバキ、アラカシ等である。

第2時限

○樹木実習（現地）

・あいち海上の森センターの遊歩施設で樹木実習を行った。

・施設内にある主要な樹木を学習。

・学習した樹木は以下のとおり、２８種。（紹介順に記載）

　クサギ、ホオノキ、コムラサキ、ツバキ、ヒサカキ、ネズミモチ、サカキ、タカノツメ、ヌルデ、ソヨゴ、シデコブシ、クロモジ、シラカシ、カキ、アラカシ、アベマキ、ミヤマガマズミ、ヤブニッケイ、ネジキ、クリ、シャリンバイ、アカマツ、ヤマボウシ、アオダモ、アカメガシワ、クワ、カマツカ、アオハダ

・樹冠の形、葉の各部の名称、枝、芽や樹木の和名の由来など解説がなされた。